

# ヤナギムシガレイ (地方名：ヤナギ、ペタペタ)



## 生態

- 年齢・成長：メスの方がやや大きく成長します。
- 成熟・産卵：産卵活動の主体はオスが満2～3歳、メスが3～5歳です。産卵期は1～6月で、盛期は1～3月です。
- 分布・移動：北海道以南に分布し、福島県沖では主に水深100～150mに分布します。産卵に伴い浅海域に移動し、水深80～100mの海域で多く漁獲されます。
- 食性：多毛類・甲殻類が主体です。

ヤナギムシガレイの成長(年齢起算日は1月1日)

年齢	平成10～11年		平成27～29年	
	オス 全長(cm)	メス 全長(cm)	オス 全長(cm)	メス 全長(cm)
1	10.6	9.0	11.3	10.3
2	14.5	15.4	13.9	13.8
3	17.6	20.2	16.2	17.0
4	20.2	23.7	18.2	19.7
5	22.2	26.3	19.9	22.2
6	23.8	28.2	21.5	24.4

## 漁獲の動向

漁獲量は平成7年以降急増し、平成9年から平成11年には250トン前後の漁獲が続きましたが、平成13年以降は100トン前後で推移しました。震災後は平成25年から水揚げされ、令和4年の漁獲量は121トンで、震災前5年平均の約101%でした。漁獲金額は平成11年に5億円を超えましたが、漁獲量の減少に伴い平成13年に急減し、その後は1～2億円の間に推移しました。令和4年の漁獲金額は0.7億円で、震災前5年平均の約52%でした。

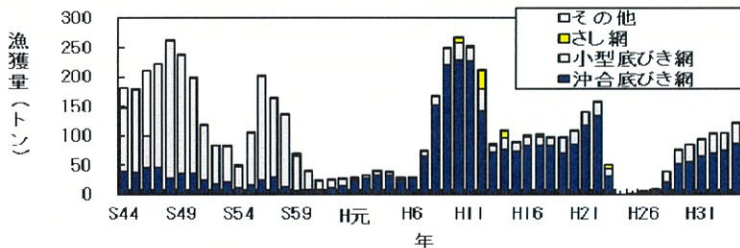


図1 ヤナギムシガレイの漁業種別漁獲量の推移

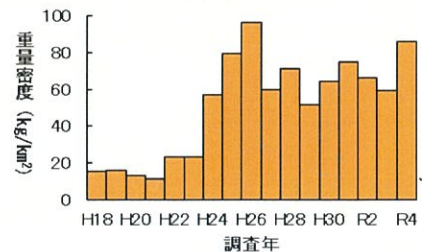


図3 調査船調査におけるヤナギムシガレイの重量密度

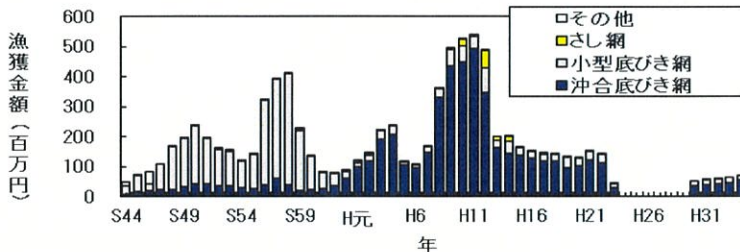


図2 ヤナギムシガレイの漁業種別漁獲金額の推移

※H25～29は相対取引のため、漁獲金額データなし

## 資源の状態

○国による令和3年度資源評価結果によれば、太平洋北部系群の資源水準・動向は高位・横ばいでした。

○調査船調査の重量密度は、平成26年にかけて増加し、その後横ばい傾向で推移しています。

資源の水準：高位

資源の動向：横ばい

## 現在実施されている管理策

総漁獲努力可能量(TAE)管理や国による資源回復計画に基づき、4～6月に禁漁区が設定され、漁業法改正後も同様の取り組みが実施されています。また、TAC管理への移行が進められています。

## 今後考えられる管理策

市場価値が高い大型魚を中心に利用し、市場価値が低い小型魚(未成魚)を保護することにより、親魚までの生き残りを高める必要があります。